

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 23 年 6 月 23 日 (2011.6.23)

【公表番号】特表 2010-526826 (P2010-526826A)

【公表日】平成 22 年 8 月 5 日 (2010.8.5)

【年通号数】公開・登録公報 2010-031

【出願番号】特願 2010-507665 (P2010-507665)

【国際特許分類】

C 07 C 39/06 (2006.01)

A 61 K 31/05 (2006.01)

A 61 P 43/00 (2006.01)

A 61 P 23/00 (2006.01)

A 61 P 25/20 (2006.01)

C 07 C 37/055 (2006.01)

C 07 C 271/44 (2006.01)

【FI】

C 07 C 39/06 C S P

A 61 K 31/05

A 61 P 43/00 1 2 3

A 61 P 23/00

A 61 P 25/20

C 07 C 37/055

C 07 C 271/44

【手続補正書】

【提出日】平成 23 年 5 月 6 日 (2011.5.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

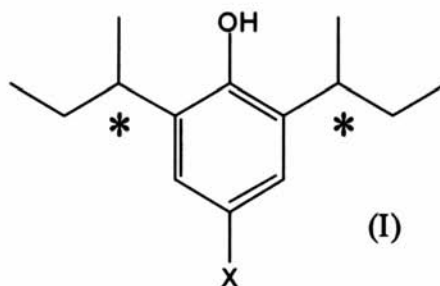
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

式 (I) :

【化 1】



(式中、X は、H または F である)

の ( - ) 立体異性体またはその塩もしくはプロドラッグ。

【請求項 2】

式 (I) の ( - ) 立体異性体または薬学上許容されるその塩もしくはプロドラッグである

、請求項 1 に記載の化合物。

【請求項 3】

式 (I) の ( - ) 立体異性体または薬学上許容されるその塩である、請求項 2 に記載の化合物。

【請求項 4】

X が H である、請求項 1 から 3 のいずれか一項に記載の化合物。

【請求項 5】

請求項 2 から 4 のいずれか一項に記載の化合物と、薬学上許容される担体とを含む医薬組成物。

【請求項 6】

静脈内投与用に製剤される、請求項 5 に記載の医薬組成物。

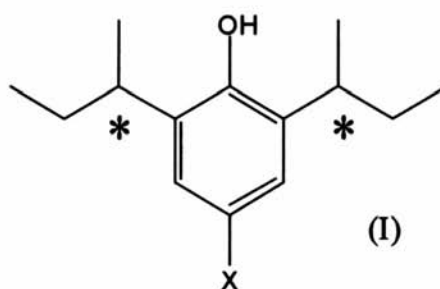
【請求項 7】

脂質エマルションとして製剤される、請求項 6 に記載の医薬組成物。

【請求項 8】

動物において全身麻酔を導入または維持するための組成物であって、式 (I) :

【化 2】



(式中、X は、H または F である)

の ( - ) 立体異性体または薬学上許容されるその塩もしくはプロドラッグの有効量を含む組成物。

【請求項 9】

前記式 (I) の ( - ) 立体異性体または薬学上許容されるその塩の有効量を含む、請求項 8 に記載の組成物。

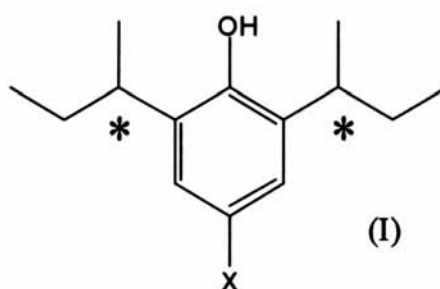
【請求項 10】

X が H である、請求項 8 又は 9 に記載の組成物。

【請求項 11】

動物において鎮静を促進するための組成物であって、式 (I) :

【化 3】



(式中、X は、H または F である)

の ( - ) 立体異性体または薬学上許容されるその塩もしくはプロドラッグの有効量を含む組成物。

## 【請求項 12】

前記式 (I) の ( - ) 立体異性体または薬学上許容されるその塩の有効量を含む、請求項 11 に記載の組成物。

## 【請求項 13】

X が H である、請求項 11 又は 12 に記載の組成物。

## 【請求項 14】

医学療法で使用するための、請求項 2 から 4 のいずれか一項に記載の化合物。

## 【請求項 15】

動物において全身麻酔を導入または維持するための、請求項 2 から 4 のいずれか一項に記載の化合物。

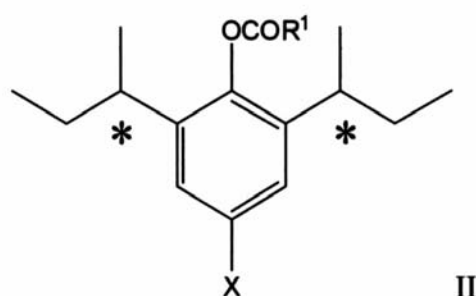
## 【請求項 16】

動物において鎮静を促進するための、請求項 2 から 4 のいずれか一項に記載の化合物。

## 【請求項 17】

式 (I) の ( - ) 立体異性体又はその塩又はプロドラッグを製造する方法であって、下記式：

## 【化 4】



(式中、R<sup>1</sup> はキラルなアミノ基を表し、X は、H または F である)

のカルバミン酸 ( - ) - 2, 6 - ジ - s e c - ブチルフェニルエステルのジアステレオ異性体を加水分解すること、その後、必要に応じ、遊離フェノールまたはその塩もしくはプロドラッグを形成すること、を含む方法。

## 【請求項 18】

前記塩を形成することを含む、請求項 17 に記載の方法。

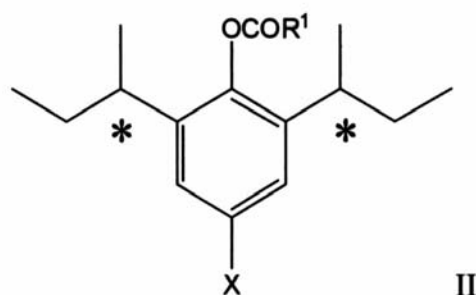
## 【請求項 19】

X が H である、請求項 17 又は 18 に記載の方法。

## 【請求項 20】

下記式：

## 【化 7】



(式中、R<sup>1</sup> はキラルなアミノ基を表し、X は、H または F である)

のカルバミン酸 ( - ) - 2, 6 - ジ - s e c - ブチルフェニルエステルのジアステレオマ

一。

【請求項 2 1】

R<sup>1</sup> が (R) - 1 - アリールエチルアミノ基である、請求項 2 0 に記載のジアステレオマー。

一。

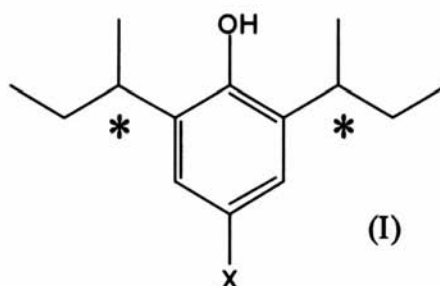
【請求項 2 2】

X が H である、請求項 2 0 に記載のジアステレオマー。

【請求項 2 3】

動物において制吐作用を促進するための組成物であって、式 (I) :

【化 8】



(式中、X は、H または F である)

の ( - ) 立体異性体または薬学上許容されるその塩もしくはプロドラッグを含む組成物。

【請求項 2 4】

前記式 (I) の ( - ) 立体異性体または薬学上許容されるその塩を含む、請求項 2 3 に記載の組成物。

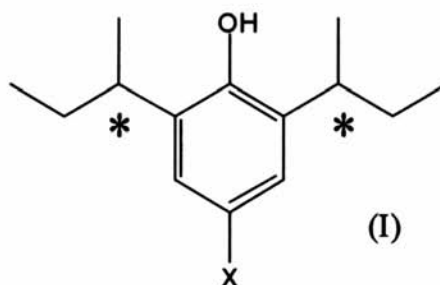
【請求項 2 5】

X が H である、請求項 2 3 又は 2 4 に記載の組成物。

【請求項 2 6】

動物において悪心、嘔吐を治療するための組成物であって、式 (I) :

【化 9】



(式中、X は、H または F である)

の ( - ) 立体異性体または薬学上許容されるその塩もしくはプロドラッグを含む組成物。

【請求項 2 7】

前記式 (I) の ( - ) 立体異性体または薬学上許容されるその塩を含む、請求項 2 6 に記載の組成物。

【請求項 2 8】

X が H である、請求項 2 6 又は 2 7 に記載の組成物。